

令和元年度（2019年度） 総務常任委員会管外視察の概要

- 1 視察期間 令和元年（2019年）11月7日（木）～8日（金）
- 2 視察者 総務常任委員会委員（6名）
橋口海平（委員長）、河津修司（副委員長）、鎌田 聡、吉田孝平、池永幸生、前田敬介

3 視察の概要

（1）日本空港ビルデング株式会社（東京都大田区）

日本空港ビルデング株式会社は、羽田空港国内線旅客ターミナルビルを建設し、航空会社や空港構内の営業者等に事務室や店舗等の賃貸、物品販売等を行っている会社である。

また、熊本空港の民営化に伴い、その運営権者に選ばれた「MSJA・熊本コンソーシアム」の構成企業であり、その後に運営会社として設立された「熊本国際空港株式会社」に株主として参画している。



日本空港ビルデング株式会社

熊本空港については、利用者の利便性及び快適性の向上を追求するとともに、羽田空港との連携を深めることで、羽田線の利用者の増加を図り、交流人口の拡大につなげることが必要とされており、世界でもトップクラスの空港運営のノウハウを有している同社の役割は大きなものがある。

今回の視察では、空港利用者のトレンドや空港ビル運営の課題のほか、熊本空港で予定されている地域に開かれた商業エリアやにぎわい広場等の地域振興について意見交換を行った。

同社からは、熊本空港では空港ビルが建て替えられるため、最初の段階からノウハウを注ぎ込むことが大事と考えており、完成後の運営においても、免税事業やラウンジ事業、SKYTRAX社の空港評価で世界一の評価を得ている清掃のノウハウを導入することで、サービスレベルの向上に寄与できると考えている。

また、羽田空港は、国際線の乗り継ぎが便利になったこともあり、国内線も含めて利用者が増えており、このことは、羽田線を基幹路線とする熊本空港にとっても追い風と考えられ、例えば、羽田空港で熊本県関係のイベントやPRなどを行うことで、手を携えて発展できるのではないかとの意見があった。

（2）静岡県庁（静岡県静岡市）

静岡県は、富士山の世界文化遺産登録について、平成18年に世界遺産暫定一覧表への記載に係る提案書を山梨県と合同で文化庁に提出し、その後、翌19年に世界遺産暫定一覧表に記載され、平成24年に世界文化遺産の推薦候補に決定し、平成25年の第37回世界

遺産委員会において、富士山城や富士五湖、浅間大社など25の構成資産から成る「富士山―信仰の対象と芸術の源泉―」として世界文化遺産に登録された。

一方、本県が登録を目指している阿蘇は、富士山と同様に、平成19年に暫定一覧表への記載を目指したが落選しており、天橋立など国内に5カ所あるカテゴリーI a（暫定一覧表記載資産の1ランク下）となっている。

現在は、令和元年8月に蒲島知事及び阿蘇郡市7市町村長が文化庁を訪問し、暫定一覧表への早期記載を要望するなど、世界文化遺産登録に向けて再チャレンジしている。

今回の視察では、山岳信仰の対象であり、広域かつ多数の構成資産を有するなど、阿蘇との共通点が多い富士山の世界文化遺産登録時における静岡県の取り組みの経緯等について説明を受けた。

静岡県では、登録に向けて民間の機運が高く、平成4年頃から世界遺産登録に向けた運動が始まり、行政は平成17年頃に体制が整い、以後、官民一体になって取り組まれてきた。

また、構成資産に係る景観改善の取り組みについて、富士宮市では、白糸の滝付近にある店舗の移設について所有者と調整を重ね、登録前の平成24年8月に移設工事に着手、平成25年12月に人工構造物を撤去し、現在、既存の店舗を公園の入口に集約する工事を実施しているほか、製紙業が盛んな富土地方では、赤白塗装の煙突が多く立っていたが、登録後は、工場側が景観に配慮して塗り直されたとの説明があった。



静岡県庁

(3) 静岡県富士山世界遺産センター（静岡県富士宮市）

静岡県富士山世界遺産センターは、世界遺産を「保護し、保存し、整備し及び将来の世代へ伝えることを確保する」拠点施設として、平成29年12月に静岡県が整備した施設である。

当センターは、逆さ富士をイメージした外観や1階から5階までを螺旋スロープで登り、疑似登山の体験ができるなど、富士山に係る歴史、文化、自然等を多角的に紹介するための様々な工夫が施されている。



静岡県富士山世界遺産センター

今回の視察では、阿蘇が世界文化遺産に登録された際、その価値を伝えていく手法等の整備をユネスコから求められることになるため、当センターの整備概要等について現地調査を行った。

当センターの基本構想は、富士山が世界文化遺産に登録される1年前に策定され、登録の申請段階では、施設整備をユネスコに約束していたとのことであった。事業費は約40億円で、建物関係に30億円、展示関係に10億円かけていた。世界遺産登録から4年半後の完成となっているが、建物は2年で完成したものの、展示物はさらに長く、映像制作等に3年かけていた。展示物は、視覚・聴覚的な展示となっており、解説文も300字以内とコンパクトにし、タッチパネルで言語を選べば、外国人でも不便なく自由に見学できるなどの工夫がされていた。